15th 感謝とともに

おかげさまで15周年。
想いをまちへ、そして未来へ。

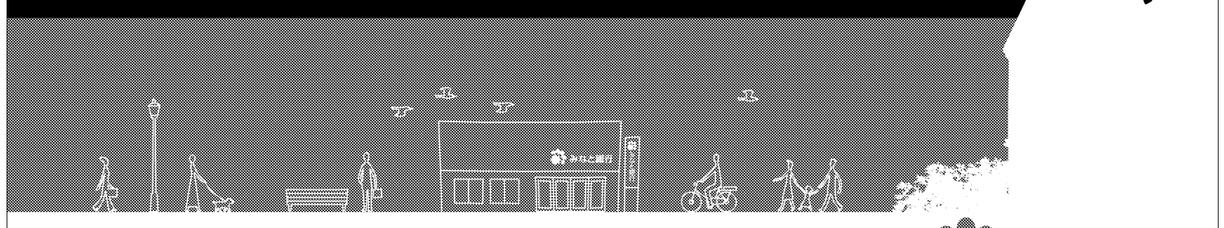
わたしたち「みなと銀行」は、平成26年4月に発足15周年を迎えます。

これもひとえに、お客さま、株主の皆さま、地域の皆さまのあたたかいご支援、ご愛顧の賜物と役職員一同深く感謝しております。

これからもわたしたちの想いをこめたより良い商品やサービス、暮らしや事業に役立つ情報などをご提供し、皆さまとともに未来へ前進してまいります。

今後とも変わらぬご愛顧を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

株式会社みなと銀行
取締役頭取　尾野　俊二



想いを、まちへ。

みなと銀行
http://www.minatobk.co.jp

Thermal Spraying Solution TOCALO　いつも、最先端。

味な表面、そろえました。

フルーツの表面は千差万別。不思議な形のオンパレードです。
鉄の表面をチタンに、アルミの表面をセラミックスに。
トーカロの表面改質技術も負けてはいません。
さまざまな高機能皮膜の研究開発を通じ、多彩な表面を創造しています。

トーカロ株式会社

溶射加工　TDプロセス　cDC-ZAGプロセス　PTAプロセス　PVD

本社 〒658-0013 神戸市東灘区深江北町4丁目13番4号　Tel.078-411-5561　Fax.078-452-8178　http://www.tocalo.co.jp

神戸空港マリンエア

開港8周年

1月15日には搭乗者数2000万人を達成し、着実に地域インフラとして役立っているのを示した神戸空港。ただ、目標達成の時期は当初想定より2年遅くなり、搭乗者数増加に向けて課題の残る状況となっている。一方で、関西国際空港（関空）と大阪国際空港（伊丹空港）が早ければ2014年度中の運営権売却（コンセッション）に向けて準備を進めるなど、周囲の環境も変わりつつある。そこで神戸空港の魅力を高めるための最近の取り組みや、関西3空港一体運営に向けた考え方について、松﨑昭神戸空港ターミナル社長に聞いた。

関西3空港一体運営に向けて

神戸空港ターミナル社長
松﨑　昭氏

弱点補う〝強み〟売り込む

INTERVIEW

―1月に搭乗者数が2000万人に達しました。

「開港後8年弱での達成になった。年平均250万人の搭乗者が居るというのはありがたいことだ。空港というのはお客さまに使っていただいてはじめて価値が出る。今後もより多くのお客さまが安全に気持ちよく使える空港となれるよう努力する」

―空港を気持ち良く使って貰うための工夫は。

「13年6月にターミナルビルを増設して搭乗橋を1基増やし、5基にした。朝の混み合う時間帯など、いったん地上に降りてからターミナルビルに入ってもらう必要があったのを解消できた」

「一方でお金を使わずにできることにも積極的に取り組む。現在当空港の年間乗降客者数は地方空港の中ではトップだが、民間空港全体では15位（国内・国際線）。何か1番になりたいと、日本一きれいな空港を目指すことを決めた。神戸空港島に進出している企業にもお願いして、空港だけでなく空港島全体の清掃活動に励んでいる」

―13年度の搭乗者数は、1月末までは前年度比約4％減で推移しています。

「関空が12年10月に格安航空会社（LCC）専用ターミナルビルを稼働した影響や、神戸空港就航便の一部機体が中型機から小型機に切り替わった影響などがある。ただ、当空港に就航する航空会社も競合のLCCに対し、価格対抗策などを打ち出している。路線内容も13年12月には米子線が就航したし、4月には仙台線が再開し充実する。搭乗者数増加に流れが変わるのを期待している」

―全日本空輸（ANA）が3月末で神戸空港での貨物便の取り扱いを停止します。

「飛行機の小型化で貨物コンテナを積めなくなったので、撤退を決断された。状況が変わってまた機体が変わった時に利用してもらえるかもしれないし、貨物ターミナルビルは当面そのままにしておく」

―関空と伊丹空港が、14年度中のコンセッションを計画しています。今後、3空港一体運営はどのように進めますか。

「安藤圭一新関西国際空港社長は3空港一体運営に前向きな姿勢を示してくれている。競合はお互いではなく、新幹線というのも共通認識。両空港のコンセッションが終わった後に、新運営会社に神戸空港が売り込みに行くため、準備を進めている。新運営会社に一体で運営してもらうためには、価値ある空港であり続けないといけない」

―3空港一体運営のメリットは。

「関西3空港を一体で運営すれば、就航先や航空ダイヤを共同で検討でき、より便利にできる。神戸空港は海上空港で、夜間も運用できるのが強み。周辺が住宅地で夜間運用に制限がある伊丹空港の弱点を補える」

―規制緩和への期待は。

「規制緩和で優先順位を付けるとすれば、まず運用時間の延長、次に発着枠の拡大だと思う。今は21時30分神戸空港着の便が最終便。利用者にアンケートを取ると、23時神戸空港着の便が欲しいという声は根強い。発着枠は4月に全て埋まる予定。発着枠が拡大すれば就航都市を増やして、より便利にできる」

累計搭乗者数2000万人達成を祝うセレモニー（1月15日）

累計搭乗者数2千万人達成

7年11カ月で

神戸空港の搭乗者数は、1月15日に2000万人を達成した。開港8周年を間近に控えた7年11カ月での達成となり、出発ロビーではくす玉を割るなど記念式典が開催された。記念すべき2000万人目となったのは、香川県立笠田高校（同県三豊市）の2年生。修学旅行で北海道に向かうため神戸空港を利用した。記念式典では、鳥居聡神戸市副市長から認定書と記念品が贈られた。開港当時の需要予測より約2年遅れでの達成となった。

年間搭乗者数は07年度の297万人が過去最高。以降、年間搭乗者数は220万―250万人台で推移している。運用時間、発着枠での規制があるのに加えて、リーマン・ショックでの景気冷え込みや、10年の日本航空（JAL）撤退などの影響があり、当初予測通りにはいかなかった。

技術で世界を輝かせる。

世界が求めるニーズはより多様化し、複雑に進化し続けています。
私たちはその一つひとつの声を叶えるために、技術を磨いてきました。
そのなかで培われた、世界をリードする素材・機械ビジネス。
私たちは、いち早くニーズに応えるというだけでなく、
技術で驚きや感動を与えることを大切にしています。

私たちがつくる、より強くしなやかな素材から、新たな価値が生まれる。
私たちがつくる、より低燃費の機械が働くことで、ある国の礎が築かれる。

私たちは技術で社会や人を繋げ、より輝く世界へと、導いていくために、
挑み続けていきます。

http://www.kobelco.co.jp/　KOBELCO

テクノロジーの頂点へ。

川崎重工業株式会社 www.khi.co.jp

川崎重工グループは「世界の人々の豊かな生活と地球環境の未来に貢献する“Global Kawasaki”」という理念のもと、広範な領域における先端技術と、その総合力で、地球環境との調和を図りながら、持続可能な未来社会の実現に向けて、新たな価値を創造しています。陸・海・空はもとより、宇宙や深海にまで及ぶ製品・システムは、その成果といえます。川崎重工グループは、これからも自らのテクノロジーをより高いレベルへと磨きつづけ、人と地球へのやさしさを次々にカタチにしていきます。

イラストは右上から ◎産業用ロボット ◎新型高速鉄道車両efSET ◎油圧ポンプ ◎ボーイング787ドリームライナー ◎ホイールローダ、左上から ◎モーターサイクル ◎セメントプラント ◎LNG船 ◎発電用ガスタービン ◎発電用ガスエンジン

Kawasaki
Powering your potential